

令和 2 年 第 1 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和2年1月24日（金）

開会午後1時00分、閉会午後1時20分

II 場所

教育委員会室

III 出席委員

1番	鳥海 清司	2番	村上 美也子	3番	山崎 弘一
4番	藤重 佳代子	5番	町野 利道	教育長	伍嶋 二美男

IV 説明出席者

教育次長	布野 浩久	教育次長	坪池 宏
教育企画課長	広沢 久也	生涯学習・文化財室長	菊池 政則
教職員課長	坂林 根則	県立学校課長	本江 孝一
小中学校課長	近藤 智久	保健体育課長	東瀬 義人

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時00分、伍嶋教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

（令和元年12月17日開催の令和元年第14回富山県教育委員会会議録）

会議録閲覧

伍嶋教育長から可否を諮ったところ、全員異議がなく承認した。

2 報告事項

(1) 国重要有形民俗文化財の追加指定について

生涯学習・文化財室長から説明した。

(2) 令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

保健体育課長から説明した。

3 その他

今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

午後1時16分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、議案第1号から議案第3号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第1号 富山県美術館運営委員会委員任命の件

議案第2号 富山県水墨美術館運営委員会委員任命の件

議案第3号 富山県立山博物館運営委員会委員任命の件

5 議事

○報告事項について

報告事項（1）関係

〔山崎委員〕

- ・点数を員数と書いてあるが、それに意味はあるのか。

〔生涯学習・文化財室長〕

- ・「員数」は数量や人数のことである。「員数」については、昭和25年文化財保護委員会規則第7号、国宝又は重要文化財指定書規則の第2条に、指定書には国宝又は重要文化財の名称及び員数という言葉を使うと定められている。それによって、何点というのは数であって、員数という名称をその場で使うことになっている。

報告事項（2）関係

〔鳥海委員〕

- ・調査結果について、小学校5年生から中学校2年生になると全国でも順位がとても落ち込んでいる。これは平成28年度の小学校5年生が、今回の中学校2年生にあたるが、この順位をみても落ちているところが見られる。順位が落ちたことに何か要因はあるのか。

〔保健体育課長〕

- ・その学年の平成28年の結果は、小5男子が13位、小5女子が10位とある程度上位であった。これまでの調査結果においても、小学校の場合は比較的上位で、中学校へ学年が上がると順位が若干落ちている。小学校の場合は、各学校で教科体育以外に業間体操への取り組みや、「みんなでチャレンジ3015」を使った本県独自の取り組みに全校的に取り組んでいる。中学校の場合は、教科体育や部活動、本県の部活動の加入率は高い方ではあるが、中学校になると個に返るところに本県の課題があるのではないのか。それについても、来月開催予定の体力向上推進委員会で関係者のご意見をいただきたいと思う。

〔山崎委員〕

- ・1～2週間前、新聞に全国的に非常に体力が落ちてきたという掲載があった。それに対して本県の場合、若干なりとも上向きであるという形ではあったが、小学生、中学生の体力は平成10年に底を打ち、それからはほぼ横ばい、若干上向き加減になったというものの、非常に低い状況にあると聞いている。一方、高齢者と成人を対象にした調査も行っているようで、高齢者についてはここ10年～20年の間に、体力が大変向上しているそうである。成人については基本的に横ばい。そういう中で、なぜ子ども達の体力が低いところで留まっているのか。

〔保健体育課長〕

- ・児童生徒の体力については昭和60年代をピークに下降し、平成10年頃に底を打って、そこから横ばいだったのが、ここ数年は中学の女子を中心に上昇傾向だった。それが今年落ちたので本県も危惧しているところである。ピーク時と比べて子ども達の体力が落ちた種目は、ボール投げ、そして握力が顕著である。一般論だが、例えば、ボール投げについては、投げるという動作自体は日常で鍛えられるものでないが、当時の子どもの人気スポーツが野球であったこと。それが昨今、サッカーをはじめ、多様化したということがある。もとより放課後の塾通い等で、外遊びなどの活動が減少したことが要因として挙げられる。さらには、キャッチボール禁止等の公園の制限利用などもあり、ボール投げの体力については落ちてきているとされている。また握力については、日常生活での生活様式の変化の例として、私達の子どもの頃は木にぶら下がるといった経験があるが、今の子ども達にそういう経験は少ない。それに加え、雑巾を絞る、蛇口をひねるといった習慣が少なくなっており、そういう生活様式の変化で握力が減少してきているのではないかとされている。高齢者の体力については、最近の60～80代の方は昔に比べて元気だと言われている。スポーツ庁においても、その年齢の方々は若い頃から運動に親しみ、かつ健康への意識が高いからとしている。実際、私達が見ている朝夕ご夫婦でウォーキングされている。ご夫婦でなくてもペットと一緒に歩いている姿は日常的に見かける。一方、30代の体力については、今年の報告によると、女性

の体力低下が目立っており、この理由については女性の社会進出が進み、子育てや家事と仕事の両立に追われているのではないかとされている。

〔山崎委員〕

- ・全国の順位だけを見るのではなく、国においても県全体としても、以前に比べて体力が随分と落ちているということを踏まえて、体育の指導にあたってもらわないといけないと思う。

〔村上委員〕

- ・空き地等が少なくなってきたおり、子ども達が小さい頃から大勢で遊ぶことが著しく減ったことが一因だと思う。また本県では、様々な施策をしている中で、もともとの運動神経が良い子を伸ばすような取り組みだけではなく、運動音痴な人達でも取り組みやすい、ダンスなどの運動が楽しくなるような事柄がしっかり取り入れられていると思うので、是非継続していただきたい。

〔保健体育課長〕

- ・運動ができる子はする、できない子はしないという2極化が激しくなったことから、10年位前から学校に専門指導者を派遣する事業を行っている。スポーツは楽しさあつてのものであり、この時の経験が、大人になってから運動するかしないかに関わってくる。楽しさを大事にすることは大切で、今回の調査でも本県の児童生徒は体育、スポーツが楽しい割合は全国平均もしくはそれより上。これまでの取り組みが、徐々に効果に表れてきていると思うし、これからもやはり本人が楽しく、納得できるような指導方法が大事だと考えている。

午後1時20分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。